

## 令和7年度学校評価報告書

令和8年（2026年）3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道網走南ヶ丘高等学校長 與田 顕規

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

<p>【スクール・ミッション】</p> <p>(1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成</p> <p>(2) 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成</p> <p>(3) 地域から期待されているオホーツク東部の中心校として、広域から入学する多様な生徒の豊かな心と健やかな体を育み、社会に貢献できる指導的役割を担う人間の育成【スクール・ポリシー】</p> <p>〈グラデュエーション・ポリシー：卒業の認定に関する方針〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基本的な生活習慣」の確立 = 明澄端正・奉仕勤労</li> <li>「自ら学ぶ態度」の確立 = 自主自立・明澄端正</li> <li>「家庭学習習慣」の確立 = 奉仕勤労・自主自立</li> </ul> <p>〈カリキュラム・ポリシー：教育課程編成・実施に関する方針〉</p> <p>生徒一人ひとりの進路希望の実現や学力を伸ばすため、卒業後の進路や適性を踏まえた教科・科目選択を行い、自分に合った時間割を生徒自ら作成できるよう教育課程を編成し、確かな学力の向上を目指した授業を実施する。</p> <p>〈アドミッション・ポリシー：入学者の受け入れに関する方針〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学等、将来の目標をしっかりと持ち、自ら学ぼうとする意欲の高い生徒</li> <li>生徒会活動や学校行事、部活動等において、リーダー性を発揮し、主体的に取り組む生徒</li> </ul>
--

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	授業とともに、授業評価アンケートの実施やオンライン授業による学習不安の解消、昼休み講習の実施により、学力向上に向けて一定の成果が見られる。 予習・復習などの家庭学習習慣の定着が不十分である。授業評価の結果に対する組織的な改善検討や、オンライン受講生徒への対面指導が難しい点が課題である。	改善の方策にあるとおり、双方向による連携の一層の強化を期待する。 大学関係者や地域の代表者等の声を直接聴くことができる場も積極的に設定を願う。
改善方策	教育目標や実践内容を分かりやすく発信し、家庭・地域との連携を深める。 クラウドサービス（Classi等）の有効活用により、保護者への情報発信を工夫し、双方向の連携を強化する。	
進路指導	小論文指導の全校体制化や、模試分析に基づく面談、進路だよりによる情報提供が成果を上げている。 保護者への熱量や情報の伝達が不十分との指摘があり、大学進学以外の多様な進路（専門学校・就職）へのきめ細かな対応が求められている。	外部機関や専門家による情報提供、および進学・就職説明会を定期的かつ機動的に実施し、生徒個々の進路意識の明確化を図る取り組みを拡充すること。 特に、難関大学等への挑戦を促す機会を積極的に創出し、高い志を育む指導の充実に努められたい。
改善方策	多様な進路に応じた情報を適切なタイミングで提供し、継続的な個人面談をとおして生徒の進路意識を高める。HR担任への面談支援を行い、学びの多い面談機会を確保する。	
生徒指導	日常的な声掛けや面談、組織的な指導体制が定着しており、生徒・教職員間の評価は概ね安定している。 いじめ防止やマナー指導に関する保護者評価が低下しており、学校側の意図や取組内容が十分に共有されていない。	生徒が抱える悩みは複雑化・多様化の傾向にあり、多忙な業務環境下においても、生徒の微細な変化を捉える姿勢が重要である。 登下校時や授業前後、放課後等の場面において、各教職員が把握した情報は、組織的に共有し迅速な指導体制を構築すること。また、生徒会による主体的な活動を指導の一環として組み入れることで、生徒自身の課題解決能力が向上し、より効果的な教育活動の展開が期待できる。
改善方策	指導の方針やねらいを通信や各種保護者説明会で分かりやすく発信し、保護者との共通理解を図る。指導理由を丁寧に説明する機会や振り返りの時間を充実させ、生徒の声を丁寧に把握する。	
保健環境	心身の健康・安全に関する指導や、体調不良・怪我への対応体制が教職員間で定着しており、高く評価されている。 基本的な生活習慣の定着や健康の維持・増進に対する意識付けに工夫が必要である。特にスマートフォン・SNS利用に関する家庭との連携が課題である。	規則正しい生活習慣の確立をはじめ、生徒が自主自立の精神に基づき主体的に行動できるよう、指導の充実に努められたい。
改善方策	保健だより等の通信を通じて指導内容を継続的に発信し、家庭と連携した取り組みを強化する。生徒・保護者双方を対象とした啓発を行い、情報モラルに関する理解を深める。	

公表方法	学校ホームページ、学校評議員会、PTA役員会
------	------------------------

## 3 添付資料

・令和7年度 北海道網走南ヶ丘高等学校全日課程 学校評価票